

平成29年度 第1回 小牧市認知症初期集中支援チーム検討委員会 議事録

日 時	平成29年11月29日(水) 14時～15時
場 所	小牧市役所東庁舎 4階 本会議用控室
出席者	<p>【委員】(名簿順)</p> <p>柴山 漢人 特定医療法人晴和会 あさひが丘ホスピタル 認知症疾患医療センター センター長</p> <p>森 真理子 小牧市医師会</p> <p>辻 清太 小牧市医師会</p> <p>菅沢 由美子 小牧市民病院 地域連携室副主幹</p> <p>土佐 知美 小牧市介護支援専門員連絡協議会</p> <p>小川 百合子 愛知県春日井保健所</p> <p>三嶋 直美 南部地域包括支援センターケアタウン小牧</p> <p>金田 泰丈 北里地域包括支援センターゆうあい</p> <p>山本 格史 健康福祉部長寿・障がい福祉課長</p> <p>松永 祥司 健康福祉部介護保険課長</p> <p>野口 弘美 健康福祉部保健センター所長補佐</p> <p>【欠席委員】</p> <p>蔦垣 めぐみ 小牧市介護保険サービス事業者連絡会</p> <p>尾崎 雅代 小牧地域包括支援センターふれあい</p> <p>宮越 晴美 味岡地域包括支援センター岩崎あいの郷</p> <p>瀬口 幸恵 篠岡地域包括支援センター小牧苑</p> <p>【事務局】</p> <p>山田 祥之 市長公室地域協働担当部長 兼 健康福祉部 地域福祉担当部長</p> <p>江口 幸全 健康福祉部 地域包括ケア推進課長</p> <p>倉知 佐百合 健康福祉部 地域包括ケア推進課地域支援係長</p> <p>長谷川 えい子 健康福祉部 地域包括ケア推進課地域支援係</p> <p>笹川 江莉奈 健康福祉部 地域包括ケア推進課地域支援係</p>
傍聴者	0名
配付資料	<p>次第</p> <p>委員名簿</p> <p>資料1 認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)について</p> <p>資料2 小牧市の高齢者を取りまく現状と推計</p> <p>資料3 認知症初期集中支援チームの設置について</p> <p>資料4 小牧市認知症初期集中支援チーム員構成について</p> <p>資料5 認知症初期集中支援チーム業務の流れ</p> <p>参考資料 小牧市認知症ケアパス</p>

1. 開会

(1) 委嘱状交付

(2) あいさつ

(3) 委員の紹介

(4) 正副会長の選任

- ・ 会長に柴山委員、副会長に森委員が選出。

2. 議題

(1) 認知症初期集中支援チームについて

- ・ 事務局より、資料1：認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）について・資料2：小牧市の高齢者を取りまく現状と推計・資料3：認知症初期集中支援チームの設置について、を用いて、説明。
- ・ 質疑なし。

(2) 小牧市認知症初期集中支援チーム員構成について

- ・ 事務局より、資料4：小牧市認知症初期集中支援チーム員構成について・資料5：認知症初期集中支援チーム業務の流れを用いて、説明。
- ・ 質疑、主な意見は以下のとおり。

柴山会長)

- ・ 業務の流れの中で、鷺見先生（国立長寿医療センター）が強調されていたのは、認知症初期集中支援チームと地域包括支援センターと認知症疾患医療センターが情報を共有することが一番大事だと言っていた。そのあたりよろしくお願ひしたい。

山本委員)

- ・ 資料3の3訪問支援対象者は、業務の流れでどの段階で洗い出しされるのか。

事務局)

- ・ 判断のタイミングとして、1つ目としては、相談を受けた段階で、ある程度判断できる方を想定。
- ・ 2つ目として、チーム員会議の中の話し合いの中で判断されることになると考えている。

三嶋委員)

- ・ 相談があった際、サービスにつながらなかった方は、地域包括支援センター又は担当ケアマネジャーが、病院受診や相談をしている状況であるが、今後は認知症初期集中支援チームへ連絡し、対応するという流れでよいか。

事務局)

- ・ 一元化していくという流れよりは、現在、地域包括支援センターもアウトリーチをかけ早期発見・早期治療につなげるという動きをしていただいている。
- ・ 今後はさらに認知症の方が増えていくことを想定すると、地域包括支援センターのみだけでは追いついていかない。
- ・ 認知症初期集中支援チームも併せて、双方連携する中で、動いていけないかと考えている。
- ・ 地域包括支援センターから全て認知症初期集中支援チームへというイメージではなく、連携していく形を考えている。

柴山会長)

- ・ スムーズに行く方は問題ない。
- ・ 主な認知症初期集中支援チームの対象者としては、なかなか受診されない、介護保険を受けられない、あるいは、BPSDで近所で問題になるようなケースが対象になるかと思う。

金田委員)

- ・ チームの構成員の医療系職員・介護系職員は、それぞれ市と社会福祉協議会の職員を予定と

のことだが、専任であるのか。

事務局)

- ・ 市は保健師が研修受講済みであるが、専任ではない。
- ・ 社会福祉協議会は、今後詰めていく予定であるが、基本的には、認知症初期集中支援チームを中心に行うが、他の業務を持ちながらという形になる予定である。

金田委員)

- ・ 初回訪問のところは難しいと思うが、訪問をしてもトラブルになってしまうこともある。
- ・ 包括が動く時に、チームがタイミング良く動いて下されば、すごい力になると思う。
- ・ そうでなければ、結局、また地域包括支援センターがということになり、報告をあげるだけになってしまう。
- ・ 最初の段階で一緒に動いて下さる体制があると、スムーズになると思う。

柴山会長)

- ・ 難しい時は、他の地域での現状は、行政が関与していただくとスムーズになるようである。
- ・ 例えば、保健所、介護保険課の職員と一緒に行かれると、市からということで、家族の方が受け入れて下さることが多いといわれている。
- ・ 鷲見先生のお話だと、認知症初期集中支援チームのガバナンスが大事であり、チームを設置する前に、初期集中支援の目標をきちんと明らかにしておくことが大事である。
- ・ 設置された場合には、目標が達成されているかどうかを常に確認をすることも必要である。
- ・ チームのメンバーは地域ごとに異なるので、その地域に即した対応をしていただけると良い。

辻委員)

- ・ 資料5の図であるが、地域住民やその他医療機関から直接、認知症初期集中支援チームへ依頼は可能か。

事務局)

- ・ 直接も可能である。

辻委員)

- ・ 医療機関でも、困った症例で認知症初期集中支援チームへ相談したいという方がみえた場合には、問合せは可能であり、また、医療機関に限らず個人でもできるということであるが、市民全体にアナウンスはしていくのか。

事務局)

- ・ アナウンスをしていく予定である。

三嶋委員)

- ・ 資料5の図の初期集中支援対象外に関し、地域包括支援センターへ戻る、あるいは、その他関係機関へ戻るという形になっている。
- ・ その中で40歳以上の方も対象ということであるが、地域包括支援センターというのは、65歳以上対象となっており、45歳で認知症が疑われる方の介護保険の申請等は、地域包括支援センターではないと思うが、どうか。

柴山会長)

- ・ 地域包括支援センターの役割の中で、平成25年くらいからは、若年性認知症も扱うということとなっている。それに該当する。
- ・ 他のところでも、認知症でない、うつ病の方、あるいは、精神疾患の方も入ってくるという可能性もあるという話である。

三嶋委員)

- ・ そうすると、保健センター等であるか。

柴山会長)

- ・ しっかり鑑別をしてからの判断になると思う。
- ・ 初めてのことであるので、色々とわからない部分もあると思うが、始めながらまた考えて、検討を重ねていくことが良いと思う。
- ・ 小牧市における認知症初期集中支援チームは、1チームということで新設され、これから運営されていくということであるが、よろしいか。

各委員)

- ・ 異議なし

柴山委員)

- ・ 各委員から異議もないので、事務局から説明があったような形で進めていきたいと思う。

(3) その他

事務局)

- ・ 第2回検討委員会は、2月下旬を予定している。
- ・ 内容については、資料5で流れをお示しさせていただいたが、具体的なチェック項目、指標等も含め事務局から例示をさせていただく中で、各委員からご意見いただけるような会議を予定している。
- ・ 当委員会で一定の共通認識を持った上で、4月からチームを立ち上げていく形で進めさせていただきたいと考えている。

柴山会長)

- ・ ご家族からの情報は大事であるが、ご家族がいらっしゃる独居の場合がなかなか難しい。
- ・ 民生委員の方やご近所の方の情報というのは、大事であると思う。

事務局)

- ・ 民生委員の方が要支援の方の見守りや声かけをされており、その中で情報を得ることができればと思っている。

柴山会長)

- ・ かかりつけ医の先生だと、定期的に通っている方は問題ないと思うが、中断している方等は相談していただいた方が良いと思う。

辻委員)

- ・ 愛知県内の他市の設置状況はどうか。

事務局)

- ・ 平成29年度7月末現在の愛知県内の状況は、全54市町村中、21市町村で設置をされている。
- ・ 実績状況を見ると、小牧市と同等規模の自治体で、年間20件、認知症初期集中支援チームにて支援をしていると把握している。

森副会長)

- ・ 認知症の方で病院へ突然いっしょらなくなった方も多く、その方たちが今どうなっているのか分からないケースもある。
- ・ 他の病院へ行っているのか、家に閉じこもっているのか、そういうケースはよくみられる。
- ・ そういう場合、市の方へ情報を持っていけば良いのか。

事務局)

- ・ 情報をいただければと考えている。

柴山会長)

- ・ 独居でご家族が遠隔な地域にいらっしゃるというような方の情報は入りにくい。
- ・ あとは、個人情報の問題が難しく、立ち足かかる。

- ・ 昔は、町内会で名簿が把握できたようであるが、今はそのようなことはない。
- ・ その地域にはどういう方がお住まいなのか正確につかみにくいので、その辺がなかなか難しい面である。
- ・ そういう場合には、市の協力がないとなかなかうまく進まない。

3. 閉会